

## サービスラーニングを振り返って

社会福祉学部社会福祉学科 2年 滝沢 健吾

活動先：NPO 法人ネットワーク大府

ゼミ：村上 徹也 先生

まず今回の活動を行うにあたって、個人的に定めた目標が「自分から積極的に動き、介護の仕事を知り学ぶ」というものだった。私の行ったネットワーク大府は、同じゼミのほかの人がいった施設と違い1つの場所に固定して6日間実習するのではなく、通所介護事業所あいこでしょと多機能ホームいしがせ、追分デイサービスこの指とまれ、グループホームわかくさ、キッズクラブという5箇所の施設を6日間で周りサービスラーニングを行った。

通所介護事業所では利用者の方に将棋はできるかい？と聞かれ、昔からやっていたので将棋の相手をしたということもあった。そこで思ったのが、そこの職員さんもほかの利用者さんも将棋をさせる人がおらず、その利用者さんはがっかりしていたそうだ。その人は昔将棋の先生をしていたこともあるらしく、将棋を指すことが生きがいでとおっしゃっていて、本当にさせる人が来てよかったと言ってくださった。その時に、福祉の勉強だけしていても今回のようなことにはならなかったらと感じ、あらゆることに挑戦したりいろいろな人と接して自分の世界を広げることが福祉に限らず、ほかの仕事においても大切なことではないかと強く思った。

それにそこの職員さんたちは利用者の方が帰って、掃除が終わったあともミーティングを開き1日どんなことがあったとか、改善すべき点を真剣に話し合っていて利用者のご第1に考えていることがすごく伝わってきた。

多機能ホームではほかの施設よりも耳が遠い方や認知症の人も多く、会話をするにもいつもより声を張らないといけなかったり、カルタなどのレクリエーションも何度もルールを説明しなくてはいけなかったのもとても大変だった。しかし風船バレーをやった時にほとんどの方がすごく元気に動いていて、運動機能については変わらないと感じた。ここで一番大変だったのは同じ話を何度も何度も話してくる利用者さんへの対応である。正直、「またか」という気持ちになり顔に出しそうになったが、その利用者さんにとっては毎日が初めて話しているつもりなので、嫌な顔はせずしっかりと聞くことが大切だと感じた。

追分デイサービスは利用者が全員女性という珍しい構成で、もともと民家だったところを施設に変えたところで、利用者は本当に居心地がよいと言っていた。それが幸いしてか歩行訓練なども積極的にやっている姿が印象的だった。

グループホームでは散歩の際に車椅子を押ささせていただき下り坂でスピードが出ないように気をつけたり、段差でなるべく振動をしないように気をつけて押した。その時感じたのは、意外にも腕や全身の力を使い大変だったということ、押される方の気持ちを考えて

押さなければいけないと強く感じた。

キッズクラブは小学生の放課後支援を行う施設で、唯一の児童と接する機会だった。子どもと遊ぶことはやはりとても体力がいることだと思った。

1つ1つの施設を知るのには時間が少なかったが、違う種類の施設を回れたことでその施設の良い面・悪い面を知ることができ実感することができた。例えば、デイサービスは比較的新しい建物で段差が少なく歩行にも差し支えないことが利点で、一方、グループホームは古民家を改築して作られているので、段差はあるが民家の雰囲気居心地が良いという利点がある。このようなことはネットワーク大府に行き良かったことである。

活動のなかで気がついたことがいくつかある。例えば、高齢者の方が幼稚園児との交流の際に、園児が入ってきただけですごく笑顔になったのを見て、高齢者にとって小さな子どもと関わることはとても大切だと思ったり、核家族が多い今の世の中で園児が祖父母世代と関わることも少なくなっているの、子どもにとってもとてもいいこととお互いにとっていいことなので大切なことだと感じた。

そして利用者さんとの会話の場面では、最初は世代のギャップもあり会話が弾まず困っていたが、話していくうちに利用者さんの家族のことを聞いたり趣味のことを聴いたり、自分の出身地の話をすると嬉しそうに話してくださったり、興味を持って聞いてくれたりしたので会話のコツのようなものがわかった。それにやはり会話は聞くほうが大切で、笑顔で聞くことで相手も気持ちよく話せるし自分の話も聞いてくれるようになることがわかった。

施設の種類によって職員の接し方や基本的な目的が違い、デイサービスなどでは利用者はほとんど何も動かず職員が身の回りのことをやるという感じだったが、グループホームは複数の方が一緒に住んでいるということもあり利用者の方に出来ることはできるだけやってもらおうという方針で活動していた。それは例えば食器の片付けであったり、洗濯物を畳んだり干したりすることだ。

活動の中で T さんというボランティアで施設によく来る方がいて、その方は一人一人の個性を尊重しながらそれぞれ違う接し方をして対応しているのを見て、これは一朝一夕ではできないことで、利用者さんと真剣に向き合わなければ無理なことだと感じ、すごいことだと思った。

私は見た目や雰囲気ですぐ不真面目だと勘違いされることが多く、案の定嫌味のようなことを最初は言われることもあったが、いつもどおり自分のすべきことをすればいいと思いやっていたら最後に、わかってくれたようでよく動いていたなどと言われ、ふてくされずにやるべきことをやっていたら自然と周りの見る目も変わり評価も変わると感じた。

他人からどう見られるのを気にするのではなく、自分をしっかりもって行動することがこれからの人生でも大切なことだと強く実感した。